



# 語る言葉

大事なのは、言葉より事実なんですよ、きつと。出来事を記憶したり、経験を人に伝えたり、そのために言葉がある。その出来事をどれほど言語化できるか、言語化したときに何か事実が、ゆがんでしまったり、変質してしまったりしないか、そこが勝負なのね。でも一方で、言葉にできたことで一瞬のことが永遠に残る思い出に変えられる。

言葉が歩き出して、他の出来事と重なって、どんどん生き始める。事実がはっきりと物語に変わる瞬間！私は、書いた言葉より、語られた言葉で育って来たような気がします。本を読むのは好きじゃなかったし、今、思い起こしても、本の中の言葉との出逢いが私を変えたというようなことはないんです。

私の母は、私がおもひついた頃から、いつも誰かに「語っている」人でした。そばに私をおいて。

自分の子どものこと、中国満州に渡ってからのこと、引き揚げのこと、そして私が小さかった頃のことなど。私は小さい頭で、記憶にはない遠い故郷を思い描き、経験したことを出来事として母から受け取ろうとした。「戦争をしてるときだったって、人はみな、一対一の人間として向き合わなくちゃ駄目なのよ。敵とか味方に関係なく、人はみんなひとりの人間なんだから。」

終戦の後、収容所に居た私たちは、略奪に来たソ連兵に脅かされることになりましたけれど、そのとき、母は、私をおんぶしてソ連兵に、ロシア語で話しかけたそうです。

「こんにちは、(ズドラーストウヴェイチェ!) お元気ですか。(カクポジュバイチェ?)」

人として対等に向き合うために言葉がある。生きるために、生き抜くために、そして生きたことを記憶し、伝えるために、人が真剣に手練り寄せた言葉。書く言葉が文化の中心だった日本の社会の中では、語る言葉は、私たちの言葉だったかもしれませぬ。体温の伝わる言葉、いのちまっすぐの言葉。大切にしたいです。



1943年ハルビン生まれ。65年東京大学在学中に、第2回日本アマチュアシャンソンコンクールで優勝し、歌手デビュー。66年「赤い風船」でレコード大賞新人賞受賞。以後、「ひとり寝の子守唄」「知床旅情」「百万本のバラ」などヒット曲を多数発表。歌手としての活動のほかにも女優・声優など幅広く活躍中。2000年より国連環境計画 (UNEP) の親善大使に就任し、2008年にはニューヨークの国連会議場で活動報告とライブを行うなど、環境保護にも力を入れている。2010年にデビュー 45周年をむかえ、ニューシングル「君が生まれたあの日」をリリース、全国ツアーを開始。<公式サイト> <http://www.tokiko.com/>

特集 02

## 日本の心、日本の言葉

対談 古典にみる日本語の魅力 ————— 阿刀田高×アーサー・ピナード  
新版教科書で育てる 日本の心 ————— 藤森裕治

### 18 新版教科書クローズアップ「聞いて楽しもう」

実践提案「いなばの 白うさぎ」————— 新しい指導を考える会  
神話は人間らしく生きる根っこ ————— 中川李枝子  
読み聞かせの場は、共に読むことを楽しむ場 ————— 首藤久義

### 24 ユニバーサルな教科書を目指して

特別支援教育の視点から ————— 澤田真弓  
色覚特性の視点から ————— 市原恭代

### 30 書写の授業を変えよう

宮澤正明

### 34 群馬県「本とのいい出会いを」



阿刀田 高  
(作家)

対  
談

アーサー・ビナード  
(詩人)

特集

# 日本の心、日本の言葉

千年以上の歴史をもつ日本語。その長い歴史のなかで育まれた伝統的な言語文化を子どもたちが学び親しむことが、今求められています。本特集では、古典にみられる日本語の魅力や、新しい教科書にどのような教材が取り上げられるかをご紹介します。

## 古典にみる日本語の魅力

古典を題材とした作品を数多く手がけられている阿刀田高さんと、日本語を自在に操り、多くの詩やエッセイを書かれているアーサー・ビナードさんと、子どもたちに古典を教えることよきについて、語り合っていました。

### 日本語は 古典に親しみやすい言語

ビナード 「古典」というと、よくはマーク・トウェイン(※1)の古典の定義「古典とは、誰もが褒めたたえ、誰も読まない作品のこと」という言葉を思い出すんです(笑)。

阿刀田 あはは。おもしろいですね。ビナード 英語で「The Classics (古典)」というと、古代ギリシャとローマの古典を指します。ホメロス(※2)とかね。だから、英米人にとって、古典の原話は敷居が高いんです。

阿刀田 そう考えると、日本人は古典に親しみやすい言語をもっているといえますよね。『源氏物語』は千年前の文学ですけど、「いづれの御時にか、女御・更衣あまたさぶらい給ひけるなかに…」という文章は、今の私たちが聞いても、ある程度の雰囲気をつかむことができます。千年前の言語を現代人が聞いてもわかるというのは、日本語以外にあまりないんじゃないでしょうか。ビナード フランス語やイタリア語、もちろん英語も千年前には成立していないです。

阿刀田 ですから、日本人はもって古典に親しんでほしいと思うんです。

※1 マーク・トウェイン (Mark Twain) アメリカの小説家。1835～1910年。主な作品に『トム・ソーヤの冒険』『ハックルベリー・フィンの冒険』など。対談中の言葉の原文は、「Classic': A book which people praise and don't read."」

※2 ホメロス 古代ギリシャの詩人。前9世紀頃に生まれ、吟遊詩人として、ギリシャ諸国を遍歴したといわれている。

# 「をかし」という言葉一つとっても、 面白い変遷があるのです。

阿刀田



あとうだ たかし  
阿刀田 高

作家。1935年東京都生まれ。早稲田大学仏文科卒業。国立国会図書館に司書として勤務する一方で、執筆活動を続け、1978年『冷蔵庫より愛をこめて』でデビュー、1979年『来訪者』で日本推理作家協会賞、短編集『ナポレオン狂』で直木賞、1995年『新トロイア物語』で吉川英治文学賞を受賞。現在、日本ベンクラブ会長。

**ビナード** 古典を学ぶことで、ものの見方が変わっていきます。その「古典レンズ」を通して世界を見れば、今まで気づかなかったことが浮かび上がってくる。

**阿刀田** 「古典の知識が何の役に立つのだ」と言う人もいるけれど、実質的に役に立つのとはまったく別の、深い意味があると思いますね。

## 古典を学ぶ意義

**ビナード** 日本語には、英語にない表現がたくさんあって、それが古典になるとさらに豊かです。来日して二十年ほどになりませんが、日本語を学び始めたころに、いろいろな場面で、英語にはない「感覚の振り分け」が必要になると感じました。

**阿刀田** それはどういうことですか。

**阿刀田** 本来「趣がある」という意味だった言葉が、時代の変遷のなかで、なぜ「おもしろおかしい」という意味になったのか。おそらく、趣のあることを表現しようとすると、ちょっと受けを狙わないといけない。なっただんだと思うのです。松尾芭蕉が、そのあたりで悩んだと思うのですが。

**ビナード** そうですね。俳諧を経て、コメデイの方へ傾いていったような気がします。  
**阿刀田** そこに、日本人のものの見方が反映されているわけで、そこまで踏み入っていくと本当におもしろいし、日本文化の奥深さを感じることができる。それは古典を学ばないとわからないことです。

**ビナード** 日本語の歴史は脈々と流れていきますから、現代と古典とを分けることが、そもそもナンセンスなのかもしれないですね。はつきりとした境界線はないんですから。

**ビナード** たとえば、「冷たい」と「寒い」という日本語がありますが、英語ではどちらも「cold」で表します。気温が低い日も「cold day」だし、氷をいっぱい入れた水も「cold water」。日本語では、前者が「寒い」、後者は「冷たい」です。最初は、その使い分けの基準がわからず、どうして「寒い水」じゃダメなんだろうと思いました。

だんだんわかってきたのが、体全体で感じるときは「寒い」、体の一部で感じるものは「冷たい」を使うことが多いんですね。「事業仕分け」ならぬ「感覚仕分け」が、言語習得の楽しみのひとつ。そして、そういう微妙な表現が日本語にはたくさんあって、古典に分け入ると、さらに豊かになります。

**阿刀田** 英語と日本語という質の違う言語を対比すると見えてくることはたくさんありますね。そして、現代の日本語と古典語

**阿刀田** そういえば、私は昔、外国人に日本語を教えたことがあります。そのときに、新聞のコラムをテキスト代わりに使っていました。しかし、かなりの上級者でも、コラムをそのまま読むことは難しいんですよ。

**ビナード** なぜですか。

**阿刀田** コラムのなかには、古典の言葉とか、だじやれのような言葉遊びとか、日本人の歴史的な言語活動が入っていることがあるんです。たとえば、ある日のコラムには、「能登はいらんかいね」という歌謡曲の一節が取り上げられていました。それは、「能登半島は要りますか」という意味でなく、「能登の物産がほしいですか」という意味です。正しい日本語ではないけれど、味わいを出すためにあえてそういう表現を使っている。それを外国人に説明することはできませんが…。

を対比すると、そこにもやはり違いがあるんです。けれど、その違い方は英語と日本語の違いとは、別種のもんです。

**ビナード** そうですね。現代語と古典語にはもっと連続性がありますから。

**阿刀田** 連続性もちながら、違いがあることの意味を考えると、そこには日本文化の変遷があると思うんです。私はそのことを説明するのによく「をかし」という言葉を使っていますが。

**ビナード** 『枕草子』ですね。

**阿刀田** 清少納言の言う「をかし」は、「趣がある」という意味です。しかし、今の私たちが使う「おかしい」は「をかし」から出た言葉ですが、「笑える」とか、「おもしろおかしい」という意味で使うことが多いのです。

**ビナード** 「変だ」「怪しい」という意味で使うこともありますね。

**ビナード** 授業の限られた時間の中で、説明してもあまり御利益ないでしょうし…。

**阿刀田** ですから事前に、コラムのそういう部分を削っておいて、外国人に読ませるんです。でも、上級者の外国人はプライドを傷つけられるようで、怒るんです（笑）。

**ビナード** ぼくでも怒るでしょうね（笑）。  
**阿刀田** つまり、新聞のようなふだん私たちが読んでいる文章のなかにも、ずいぶん言語の歴史的背景が含まれている。それを知らないで、現代文をきちんと理解することはできないんです。日本語を使いこなせる外国人が、コラムを読めなかったように。  
**ビナード** 今の日本語だけを見ても、現代の文章を理解するには足りない。現代社会と歴史と、同じ関係ですね。

# 現代と古典とを分けることが、 ナンセンスなのかもしれないですね。

ビナード



アーサー・ビナード

詩人。1967年米国ミシガン州生まれ。2001年に詩集『釣り上げて』（思潮社）で中原中也賞、2005年に『日本語ぼこりぼこり』（小学館）で講談社エッセイ賞、2007年には『ここが家だ——ベン・シャーン第五福竜丸』（集英社）で日本絵本賞を受賞。近著に、詩集『ゴミの日』（理論社）など多数。



## 四季折々の豊かな言葉

ビナード 新しい教科書には、さまざまな古典や季節の言葉が紹介されるそうです。阿刀田さんが好きな季節の言葉は何ですか。

阿刀田 雨の言葉が好きですね。「五月雨」<sup>さみだれ</sup>、「時雨」<sup>しぐれ</sup>、「菜種梅雨」<sup>ななづめ</sup>※3、「卯の花腐し」<sup>うの花くた</sup>※4。日本は雨が多い国で、四季と絡めた雨の言葉がたくさんあります。四季とは関係ないけれど、「遣らずの雨」<sup>やらずの雨</sup>※5という言葉もいいですね。ちょっと色気が出すぎるかもしれません。

ビナード 小学生にはね(笑)。ほくは時間帯と動植物をつなげた言葉がおもしろく

いた言葉ですが、いつしか季語になっていった。地域限定で使われていた言葉が季語になることもあります。きつといくつかの秀句が出たのでしょうか。

ビナード 「やませ」<sup>やませ</sup>※9もそうですね。しかし、最近では異常気象で歳時記の季節の流れと合わなくなってきました。

阿刀田 そうなると、古典文学とのつながりが薄れてしまう可能性がありますね。

ビナード 経済が成長する一方で、気候がおかしくなり、田園風景もなくなりつつある。古典を教えるのに困難な時代になってきていることは事実です。

阿刀田 日本語がどうしてここまで豊かになってきたのか考えると、この国は資源が少なく基本的に貧しい国だったからだと思います。貧しいなかで心を豊かにしていくために、言葉を大切にし、さまざまな言葉を使うようになったと思います。経済が発展し、その状況は変わりつつありますけれど。

## 「五月雨」、「時雨」、「菜種梅雨」… いい言葉だと思いませんか。

阿刀田

て、たとえば、「夜桜」。桜の花と時間帯とあわせて一語にしているのが、実に風流です。「夜桜」のいい句があると英訳したいのですが、「cherry blossoms at night」となってしまう。言葉がほぐされてしまい、何か違うんですね。

阿刀田 夜桜で思い出しましたが、日本には月を表す言葉もたくさんありますね。「弓張月」<sup>ゆみはりつき</sup>※6なんていいと思いますか。「細い月」では、実に味気ないでしょう。そういう言葉を知ること、物を見る目が豊かになると思います。

季節の言葉ではないけれど、私は「たそがれ」という言葉がとても好きなんですよ。「誰そ彼」<sup>たれそかれ</sup>「つまり」「Who is he?」。

ビナード sheではダメですか(笑)。

阿刀田 昔の女性は、遅い時間に外出できませんから、男性でしょうね(笑)。同じような言葉に「朝まだき」<sup>あさまだき</sup>※7があります。慣用句が状況を表す言葉になっていて、それも日本語の豊かさだと思っています。

ビナード その豊かさを考えるとき、ほく

は歳時記が大きな財産になっていると思います。多くの人々が感覚的に共有できる季節の言葉が「季語」として認められ、歳時記によって体系づけられて残っていく。歳時記はただの教養ではなく、感覚的に尖ったものではないでしょうか。

阿刀田 そうですね。季語のない俳句もありますが、私はやはり季語が入った俳句が好きです。俳句という芸術に季語を置くことによって、日本人の季節感がさらに鮮明になりますから。

ビナード 歳時記を見てみると、日常生活では使わなくなった言葉が季語として生き残っています。たとえば「ひこばえ」という春の季語があります。木の根っこなどから生えてくる若芽のことなのですが、ふだんあまり使わない言葉です。でも、歳時記には載っていて、ときどき誰かが「ひこばえ」を入れたいい句をひねるので、言葉として命を保ち続けている。

阿刀田 おもしろいですね、季語というのは。「リラ冷え」<sup>リラひえ</sup>※8は北海道で使って

## 古典の授業に遊び心を

阿刀田 子どもたちに古典を教えるとしたら、アーサーさんはどんな授業をしてみたいと思われませんか。

ビナード 子どもたちの生活とつながる授業がしたいですね。小学校で古典を生かすには、子どもたちの毎日とどう結びつけるかということが、いちばん大事なんじゃないでしょうか。たとえば、『枕草子』ならリストが中心だから、みんなで創作をしてみよう。

阿刀田 「にくきもの」<sup>にくきもの</sup>※10なんて、いいかもしれない(笑)。

ビナード そういうランキングは、すぐに

## 「夜桜」、「夕桜」、「朝桜」、 どれももうまく英訳できないんですよ。

ビナード



※9 やませ(山背) 山を越えて吹く風。特に、夏に東北地方に吹く冷涼な北東の風。

※10 にくきもの 『枕草子』第25段。「にくきもの いそぐ事あるをりに、長言するまらうど」で始まる。「硯に髪の毛が入って擦られている状態」「何か聞こうと思うときに泣く乳飲み子」など、清少納言の視点による「にくらしいもの」が綴られている。

※6 弓張月 弓の弦を張ったような形をしている月。

※7 朝まだき 「まだき」は未だの意。夜が明けきらない頃。早朝。

※8 リラ冷え 「リラ」はライラックの別名。北海道でライラックの花が咲く頃(初夏)に気候が冷え込むこと。

※3 菜種梅雨 3月下旬から4月にかけて、菜の花が盛りの頃に降り続く雨。

※4 卯の花腐し 陰暦の4月を卯の花月という。その頃に降り続く雨。卯の花を腐らせる意。五月雨の別称。

※5 遣らずの雨 人を帰さないかのように降ってくる雨。

できそうですよね(笑)。子どもはおもしろがって編み出すでしょう。でも、ただ嫌なものを挙げるだけではダメ。「清少納言は、自分ならではの面白い表現をしているんだよ」と教えながら、子どもといっしょに作っていく。

阿刀田 いいですね。

ビナード 「春はあけぼの」も創作したらおもしろいでしょうね。雪が二メートルも積もる津軽平野の子どもたちが作る「春はあけぼの」は、都で清少納言が書いたものとはきつと違ってくる。ただただ「覚えましょう」という授業でなく、ワークシヨツプ的な作業をしてみたいです。教える側も楽しみながら。

阿刀田 先生方がそういう遊び心をもってくださるといいですね。私は幼い子どもたちに、言葉遊びを教えたいです。だじゃれ、数え歌、回文、しりとり、いろは歌。日本にはたくさん言葉遊びがありますから。ビナード 和歌の掛詞や枕詞も言葉遊びと

古典の授業は、先生方が愉快な心をもっていることが大事でしょうね。

阿刀田

古典と子どもの日常の接点を探りながら、分け入ってほしいです。

ビナード

し、子どもたちも嫌いではないような気がします。

ビナード 新しい教科書には「寿限無(※11)」が載るそうですが、以前ある小学校に行ったら、五年生の子どもたちがぼつちり覚えてるんです。下手すると嘶家の前座よりうまい。

和歌は歌うように、俳句はリズム感で、落語は間と語り口と笑いで。そうやって覚えていけるかもしれないですね。『枕草子』だったら、清少納言の人物像がつかめてくると、暗記しやすい気がします。覚えることで、そのテキストがもつ背景がおのずと見えてきます。

阿刀田 ええ。たとえば百人一首だと、自然のことを詠んでいるようで、実は自分の好きな相手のことを詠んでいることがあります。今の子どもたちは「はつきり言ってくれ」なんて思うのかもしれない(笑)。「昔の日本人はこういうものの方したのか」と、当時の時代背景を知るきつ

いえますね。

阿刀田 和歌や俳句は、レベルの高い言葉遊びでしょう。言葉遊びは古典とかかわりのあるものが多いのです。「だじゃれ先生」と言われてもいいから、どんだん子どもたちに言葉遊びを伝えて、言葉への興味をもたせたいですね。

ビナード やりすぎると、だじゃれ先生が「にくきもの」のリストに挙げられる(笑)。

阿刀田 言葉遊びは古典に親しむ手始めになると思いますよ。私の家族は言葉遊びが好きで、幼い頃からよく教わりました。それと、今思えば、小学校高学年で「小倉百人一首」に出会ったことがよかったです。思っています。姉貴たちがよく百人一首で遊んでいたの、負けたくない一心ですべて覚えました。意味はよくわからなくても、覚えることで何となく百人一首の世界に入っている感じがする。それから、あの調子を知っておくと、後に古典にふれるとき、心にと入ってくるのです。

かけになると思います。

大人も古典に親しむ

阿刀田 やはり古典の授業では、先生方がどこまで愉快なものを心にもっているかが大事でしょうね。

ビナード 本当にそう思います。新しい学習指導要領では、伝統的な言語文化が重視されていますが、子どもに「古典に親しみなさい」という前に、はたして大人が古典に親しんでいるのか、生活の中で活かそうとしているのか。そこが重要になると思います。

阿刀田 新しい教科書には、たくさん古典が載っていて、それ自体はよいことだと思っています。しかし、教科書がひとりだけ頑張っているのはだめですね。やはり先生方がそれをおもしろがって教えてくださらないと。

ビナード 古典を通して現代社会を見つめ

ビナード 百人一首は、歌うように暗記できそうです。学校で「係り結びの法則」を勉強するのはイヤだけど、「音で覚えたあの歌も、けりけりじゃなくて、けるだつたな」と、実例が体内にしみこんでいると、強いですよ。

阿刀田 遊びとして頭に入っていることはすばらしいと思います。

ビナード たとえば、家族の誰かが謡をやっているといいかもしれない。謡の文句も、古典を学ぶときに役に立ちますよ。

阿刀田 そのときに意味がわからなくてもいいんですね。後で、「これはこういうことだったんだ」とつながりますから。丸暗記というのは、そんなに悪いことではない



れば、「今」がより鮮やかに映し出されます。古典と子どもたちの日常との接点を探り、子どもといっしょに、楽しみながら分け入ってほしいですね。

阿刀田 日本語には千数百年の歴史があつて、古典はその原点といえます。

先ほど、「この時代だからこそ言葉のもつ力を取り戻したい」と申し上げました。今、言葉のもっている力を取り戻すためには、日本語の原点である古典を、大人も子どももしっかり見つけていくことが、大事なのではないでしょう。

※11 寿限無  
古典落語の一つ。「寿限無寿限無…」で始まる長い名前によっておこる笑いを主題としたもの。

# 新版教科書で育てる 日本の心

## はじめに——時間・未来・過去をめぐる問答

—わたしたち人間にとって、「時間」はつねに未来に向かう感覚として存在します。なぜなら、わたしたちが感じる「時間」とは、旅人が目的地に向かって歩き続けるような、ある方向性をもった動きであり、その方向は必ず未来を指すからです。

—過去は感覚としての「時間」に入らないのか。

—入りません。なぜなら、過去とは方向性をもった動きではなく、経験と知識の蓄積だからです。

—それで何が言いたいのだ。

—未来に向かうわたしたちの「生」は、後戻りすることのできない方向性を持っています。つまり、時間という動きにしばらくはいます。ですが、未来の「生」をどんな「生」

にするか、その手がかりや見通しは、過去という蓄積から、いつでもいくらでも取り出すことが可能だと言いたいのです。

—なんだ。そんなことなら、昔から「温故知新」というじゃないか。

—そうですね。ただ、その格言を引き合いにする行為こそ、過去を未来に生かそうとする営みだということに自覚的であってほしいのです。わたしたちは、過去という蓄積からさまざまな知恵や技術を受け継いで未来に向かいます。そのとき、蓄積された事柄は時間というしりとりから解き放たれ、どの時代のものでも自在に手に入れることができるのです。これを生かささない手はありません。

## 〈伝統的な言語文化〉を学ぶ意義

冒頭からやや哲学的な会話を出したのは、〈伝統的な言語文化〉を小学校で扱うことの意義を示すためです。〈伝統的な言語文化〉を端的に言えば「古典」です。読者の皆さんは「古典」と聞くと、どのようなイメージを抱くでしょうか。読みづらい、古くさい、文法で苦しんだ。そんな声が聞こ

えてきそうです。古典を小学校国語科で扱う意義はどこにあるのか。この問いに明確に答えるには、工夫が要りそうです。

先ほどの会話から導かれる答えはこうです。

後戻りできない未来をよりよく生きるために、子どもたちの「生」を豊かにする必要があります。

子どもたちの「生」を豊かにする知恵や技術のうち、長い間人々に受け継がれ、語り継がれてきたものには、未来を照らす価値、言い換えれば普遍的な価値があるはずです。そこには、わたしたちの祖先から連綿と紡がれてきた「生きること」へのメッセージ、「日本の心」が織り込まれています。その「心」を、最も美しく磨き上げた状態で子どもたちに届ける作業は、未来をたくましく照らすための松明を手渡すことに他なりません。

こうした思いから、光村の新しい小学校国語教科書では、一年生から六年生まで、〈伝統的な言語文化〉にふれる教材をちりばめました。それらはすべて、未来に向かう子どもたちの「生」とつながっています。六年間の学びを終えて中学校に向かうとき、こんなにもたくさん過去の学んできた

だという自信と誇りが、すべての子どもたちの胸にこみ上げてくる、その瞬間のために十冊の教科書は編まれています。

## 光村教科書における〈伝統的な言語文化〉の世界

新しい教科書では、〈伝統的な言語文化〉として代表的な単元が三十一編もあります。教材総数はこの何倍にもなります。これらのねらいと魅力をすべて紹介するわけにはいきませんので、これから、筆者が特に興味をひかれる単元構成や教材に通し番号をつけ、紙幅の許す限りでその特徴と魅力、扱い方の工夫を、せつかくですから「文語調」で記してみようと思います。

願はくば、この紹介文をして全国の先生方を宣揚せしめん——。とこんな感じです。それでは……

### 【全体構成】……

光村の新しい小学校国語教科書の〈伝統的な言語文化〉に関する単元は主に二つの系統をなす。

第一は六年間一貫して学ぶ単元として、全学年に

- 「聞いて楽しもう」
  - 「声に出して読もう」
  - 「季節の言葉（二年より）」
  - 「学習を広げる」
- を配す。これらは四季の巡り来るごとく繰り返し学ぶことにより、子どもたちの情操を育成するものなり。
- 第二は、学期中の独立単元として、各学年に

- 「むかしばなしがいつばい（二年）」
  - 「かるたについて知ろう（三年）」
  - 「『ことわざブック』を作ろう（四年）」
  - 「伝統文化を楽しもう（六年）」
  - 「ものの見方を広げよう（六年）」
- などを配す。これらは昔話、かるた、ことわざ、狂言、落語、絵巻を取り上げつつ、声、絵と共に受け継がれし言語文化に親しむ態度を育てるものなり。



ふじもり ゆうじ  
藤森裕治  
信州大学教育学部教授。長野県生まれ。東京都立高等学校教諭を経て、現職。教育学博士。専門は国語科教育学（授業研究）、日本民俗学。NHKラジオ高校講座講師。著書に『死と豊穡の民俗文化』（吉川弘文館）、『国語科授業研究の深層—予測不可能事象と授業システム—』（東洋館出版社）など。



木々の早き生長を折る行事は「成木責め」として日本各地に今もあり。年の初めに果樹の根元に斧をあて、「実多くならずか、ならさねば伐るぞ」と唱へ、豊作を予祝するものなり。

**四「季節の花の名」**……………

二年の「季節の言葉」に取り上げられし四季の植物名は五十一種類に上る。春の七草もあり。国語学者の金田一春彦氏の生前に語りて曰く「米国の大学に留学せし某日本人学生、休日の体験を英文で随筆にせよとの課題に、公園に出でて遊びしことを記して提出せり。後に教官に呼ばれ、『英語は正しけれど汝は知識をひけらかす憾みあり』と言はるるに合点がゆかず、何故かと思ふか問ひ返すに、『文科系の学生ならば、公園で見かけし花々は「赤や黄色の花の咲けり」と書くに、汝はいちいち植物名を記す」となむ言はれたる。日本語には植物の語彙多く、個体識別も異国の人々を驚かすほど繊細なることを知る逸話なり」と。季節の花々は異名も多く、また、子どもらの格好の遊び道具にもなる。これらを集めて俳句、短文などを添へれば、美しき単元となるべし。

**二「季節の言葉と年中行事」**……………

「季節の言葉」には「花見、菖蒲湯、茶摘み、田植え、七夕、夏祭り、盆、月見、稲刈り、大掃除、除夜、節分」など、伝統的な年中行事が集まれり。これらは、時季に応じて話題にし、関連する俳句、唱歌などを紹介すべし。六年間の繰り返しにより、子どもたちは、季節の巡るがごとき時間の流れを実感す。哲学者の内山節氏が『「里」という思想』（新潮社）に曰く、「古き日本の農村では、時間が季節とともに循環し、一年たてば元の時に戻ると言ふ感覚を持ちて暮らしたる」と。地球温暖化の危機迫る今日、変化と発展を是とする時間を見直し、不易と安定に生きる時間を再評価することの意義は少なからず。

**三「神話や伝承」**……………

一年「おはなしがいっぱい」は、折り込みの絵に日本と西洋に伝はる昔話の名場面をまた描き込み、どこに何の話があるか探しつつ、見つけし昔話を読み聞かす元なり。読み聞きしいくつかの昔話の類似点などを見つくるも楽しきわざなり。例へば「花咲爺」、「さるかに合戦」、「ジャックと豆の木」には、いづれも植物のはかに生長するくだりあり。「竹取物語」もこの類なり。







# 聞いて楽しむ

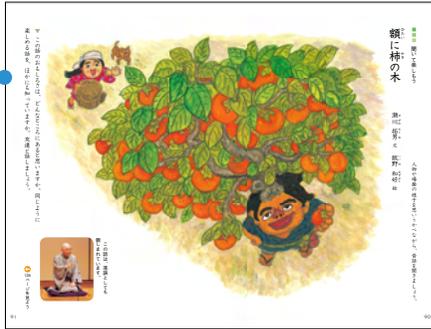
このコーナーでは、新版教科書の新しい試みをご紹介します。今号は、各学年に位置つけた「聞いて楽しむ」の教材を一挙ご紹介!

新しい学習指導要領では、低学年の指導内容として、民話・昔話の読み聞かせが示されています。新版教科書では、民話や昔話を聞いて楽しむ学習材「聞いて楽しむ」を六年生まで系列化して位置づけました。

滑稽な話、スリル満点な話、落語、怪談、しみじみとした民話——子どもたちが思わず聞き入ってしまうさまざまなお話を、子どもの発達段階に応じて掲載しています。まず子どもたちが、絵を見て想像をふくらますように、見開きで挿絵を入れました。文章については巻末に配しました。最初は子どもたちに挿絵を見せながら、先生が文章を読んであげてください。その後、子どもたちが自分で文章を読んだり、誰かに読み聞かせたりしてもよいでしょう。六年間を通して、豊かな語り文化にふれることで、言葉の力を育む素地を築いてほしいと考えています。

## 「額に柿の木」 (四年下)

酒飲みの三太郎の頭に柿の実が当たり、そこから柿の木が生えてくるといふ不思議な民話。落語「あたま山」としても親しまれている。



## 「三まいのおふだ」 (二年下)

和尚さんから三枚のおふだをもらって山に出かけた小僧は、やまばにつかまってしまふ。おふだを使って切り抜けようとするが…。スリリングななかにもユーモアあふれる昔話。擬声語や擬態語が多用されているのも楽しい。



## 「ばけくらべ」 (三年上)

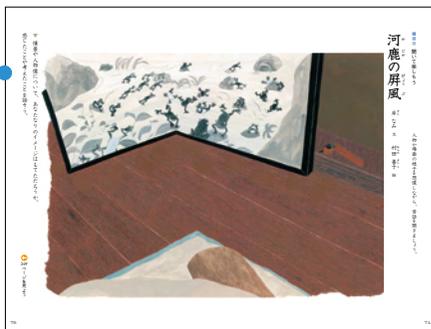
“ごんべえだぬき”と“へらこいぎつね”の化けくらべ。さあ、うまく化かせるのはどっち? たぬきときつねのやりとりが愉快な昔話。

## 「雪女」 (五年)

吹雪の日に雪女に助けられた箕吉は、「今見たことを決して人に言うてはいけない」と言われるが…。せつなさが残る小泉八雲原作の怪談。

## 「河鹿の屏風」 (六年)

河鹿の住む山を売らずに守り続けた菊三郎。あるとき、菊三郎が持つ白い枕屏風に、あざやかな河鹿の絵が描かれていた…。静岡県伊豆地方に伝わる民話。



## 「まのいいりょうし」(一年下)

獵師・百一つあんが、カモやイノシシを運よく手に入れていくという楽しい昔話。百一つあんの情感あふれる方言も魅力的。

実践  
提案

いなばの白うさぎ(二年上) 新しい指導を考える会



泳げないうさぎは、さめを一列に並ばせてその上を渡ろうとするが…。古くから伝わる出雲神話の一つ。



「いなばの白うさぎ」の後に掲載される「本はともだち」のページ。

「伝統的な言語文化」の授業

今回の学習指導要領では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が新設され、小学校では平成二十三年から「伝統的な言語文化」を授業に取り入れることとなった。低学年では、「昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること」という指導事項が明記されている。ここでは二年生を例に、実際の授業を考えてみたい。

教材について

古事記を原典とするこの神話は、心優しい大国主命の成長物語として昔から親しまれてきた。家庭や幼稚園などで読み聞かせを聞いている子どもも多いと考えられる。見開き二ページの挿絵は、子どもたちの興味を引きつけ、想像をふくらませるだろう。また、巻末に掲載された文章は、昔話の語り口を取り入れ、子ども自身が楽しく読み進めていける構成や表現となっている。

教師による読み聞かせを主たる活動とし、「だれが、何を」というキーワードで、話し合い活動へとつなぐ。さらに、「本はともだち」では、地方の昔話や民話の絵本が紹介されており、読書活動へ発展させていく。

指導の実際

この教材では次のような授業が考えられるだろう。

第一時

① 挿絵からどんな話であるかを考える。

挿絵のみが見開きで提示されているという教材の特性を生かし、挿絵から予想されることを子どもたちに考えさせる。

② 読み聞かせをする。

子どもたちを教師の周りに座らせ、話を聞く姿勢を待つ読み始める。大きな声色は必要なく、子どもがゆったりと聞けるようにする。絵本ではないので、挿絵を拡大して黒板に貼ったり、「国語デジタル教科書」(※1)で拡大提示したりしてもよい。

③ 登場人物とその行動をグループで話し合う。

グループで話し合うことにより、一人では確かめにくい子どもが内容をつかむこ

とができる。資料1のようなワークシートを準備してもよい。

④ 谷真作の「いなばの白ウサギ」(佼成出版社)の読み聞かせを行う。

□ 承文芸の昔話、神話・伝承が、いろいろな人の手によって物語となることや、その違いに気づくことで、現在に引き継がれている心につれさせたい。

絵本を見せながら読み聞かせをするときは、子どもたちを前に集め、楽な姿勢で絵が見られるように配慮する。子どもたちが教師との一体感を感じてくれる。

第二時

① 朝読書の時間に読書活動を広げる。

「本はともだち」や教師作成のブックリスト(資料2)を参考にする。神話は一人で読むには難しい表現もあると思われるので、「読みあい」(※2)活動を取り入れるとよい。

② 友達に読み聞かせたい本を選び、読み聞かせを行う。

一時間を前後半に分け、ワークシンプ形式で行う方法もある。その本を選んだ理由も明らかにし、聞き手から感想をもらうようにする。

資料1(ワークシートの例)

きいて、たのしもう

1 どんなお話をしようかを見てどんなことを思いましたか。

2 読み聞かせを聞いて、書きましょう。  
出てきた人(動物)を書き、したことを

3 「いなばの白うさぎ」の挿絵を参考に、自分のお話をしよう。

4 ついに、どんなお話をしようかを書きましょう。

※1 国語デジタル教科書 教科書を拡大投影することで、全員で同じ画面に注目しながら学習できる指導用ソフトウェア。

※2 読みあい  
一対一で、一人が絵本を声に出して読み、相手が見て聞いてというもの。児童文学作家の村中李衣氏が提唱している。

資料2(ブックリストの例)

きいて、たのしもう

1 日本にむかしからつたわるおはなしを、読書のじかに読みましょう。のタイトルを思い出して、本のタイトルを思い出そう。

2 読んでおはなしの中から、ともだちに読んであげたいおはなしを、えらばしよう。

3 読んでおはなしの中から、ともだちに読んであげたいおはなしを、えらばしよう。

書名	著者	出版社	ジャンル
いなばの白うさぎ	谷真作	佼成出版社	
やまたのおろち	新井 隆	講談社	
にほんたんじょう	あべのりょう	講談社	
おおくにぬしのぼうけん	福家武彦	講談社	
うみみこ やまひこ	写楽亭	講談社	
あまのこ	福家武彦	講談社	
ヤマトタケル	福家武彦	講談社	
あまのこ	福家武彦	講談社	
くにおのじまり	福家武彦	講談社	
あまのいわと	福家武彦	講談社	
やまたのおろち	福家武彦	講談社	
いなばのしろうさぎ	福家武彦	講談社	
すまのおとおくにぬし	福家武彦	講談社	
うみみこ やまひこ	福家武彦	講談社	

読んで見つけたおはなしからつたわるおはなし

1		
2		
3		

# 神話は

## 人間らしく生きる根っこ

—今回の改訂で、二年上巻に「いなばの白うさぎ」を書き下ろしていただきましたが、以前から興味のあつたお話だとうかがいました。

この神話は、幼いころから知っていますし、昔は『大黒様』というこの話を題材とした歌もよく歌っていましたから、親しみのある話です。そして、現代のあわただしい社会の中で暮らしていると、神話や民話、昔話は、人々が素朴に幸せに人間らしく生きる根っこだと感じるようになりました。ですから、ぜひ教科書に載せたいと思っていたのです。

しかし、いざ、現代の小学二年生に向けて書くとなると大変でした。

—どんな苦労がありましたか。

まず、原典の『古事記』をそのまま訳したのでは、人名や話の背景など複雑で難しくなってしまう。そこをわかりやすく表



なかがわりえこ  
中川李枝子

児童文学作家。北海道生まれ。光村図書 国語教科書の「はる」「いねんせいのうた」(一上)、「くらぐも」(一下)、「いなばの白うさぎ」(二上)の作者。「いやいやえん」「ぐりとぐら」シリーズ(以上、福音館書店)など多数の作品で親しまれている。

—授業の中では、どのように読み聞かせをしてもいいですか。

大げさな演劇調にするとか、いろいろな解釈を入れるとかせずに、このままの文章を、先生のいつもの声、いつもの調子で読んでいただければそれで十分だと思っています。

わたしが小学校のころ、体育が雨で中止になると必ず先生に本を読んでいた記憶があります。どんな本だったかはほとんど記憶にありませんが、そのときのうれしさは今でも忘れられません。

今の子どもだって、本を読んでもらうことや先生との交流が嫌いなはずはないと思います。できるだけ時間を作って子どもたちに本を読んであげてください。

## 読み聞かせの場は、

## 共に読むことを楽しむ場

—「読み聞かせ」が教科書に位置づくことで、どんな効果が期待できるでしょうか。

読み聞かせは、子どもにとっては「耳からの読書」といってよいでしょう。この経験を小さいころから積み重ねることは、まず、読書に対する肯定的で能動的な態度を養うのにとっても役立ちます。また、普通の会話のような「話し言葉」ではなく、「書き言葉」の文体へのなじみを深めることにもつながります。つまり、将来の自律的な読書習慣への大事な資本蓄積になるといってもよいでしょうね。また、大人になってオオーディオブックを聞いて楽しむことがあるように、読書への入門であると同時に生涯続く読書の方法といってもよいでしょう。そういった意味で、教科書教材として全年に位置づけられたのは画期的なことだと思います。今回の教科書改訂では、各学年の「読書案内」も充実させました。「読んでもらって聞く」というと、一見、受け身の活動で、

現するために、書きだしと結びにいちばん苦勞しました。書き

だしでは、「むかし、むかし、大むかし」「八十人ものかみさまの兄弟」などと表現することで昔話とは違ったもつともつと昔のこと、神話ならではの感じを出したつもりです。結びも、原典にそって、ここまででひとまず完結した話になるようにしました。

また、先生の朗読を前提とした教材化という点でも工夫しています。わたし自身も経験がありますので、聞き手の子どもたちが、次に何が起きるのかわくわくしながらお話を聞く様子を知っています。そんな子どもたちをしつかりひきつけるように、場面の展開をはっきりと表し、情景が子どもたちの目に浮かぶように簡潔な表現を心がけ、一文をあまり長くせずテンポよく話が展開するようにしました。



しゅとうひさよし  
首藤久義

千葉大学教授。旧満洲に生まれ、大分県別府市で育つ。秋田大学、文教大学を経て、現職。日本国語教育学会常任理事。主な著書に『書くことの学習支援』、『生活漢字の学習支援』(以上、東洋館出版社)など。

読書とは正反対のように感じられますが、子どもが自分から頼んで読んでもらおうとする場合には、きわめて能動的な読書体験となります。読み聞かせ教材を入り口として、さらに先に広がる豊かな本の世界への道筋もしつかりとつけられているのです。

—読み聞かせをするうえで、気をつけなければならぬことはどんなことでしょうか。

最初は教師の側から働きかけながらの読み聞かせでいいのですが、子どもが「先生、これ読んで」と言ってくるような雰囲気を作ることも大切です。

そのためには、聞いた後に必ず感想を求めたり、話の内容について質問したりすることはできるだけしない。聞き手の心を自由に、楽にして作品の世界に没頭させてください。

それから、できるだけ多種多彩な本を

んであげること必要です。教材として取り上げられている昔話や民話のおおらかで楽しい世界は入門として最適です。が、それぞれの子どもによって好きなジャンルは違いますから、物語に限らず、科学的な読み物でもいいですし、学年によっては新聞記事でもかまいません。

また、朝の会、昼休み、放課後など、機会もできるだけ多く設けてやるのが大事です。その中で、「先生、これ読んで」という要求が出てきたら、不公平にならないよう配慮しながら、読んであげてください。

「読み聞かせ」の場は、声と耳を通して読書を共有したり、交流したりして楽しむ場です。先生が「読み聞かせ」をするだけでなく、子どもが「読み聞かせ」をする場を工夫してもよいですね。

# ユニバーサルな教科書を目指して

すべての子どもたちが「学ぶ楽しさ」にふれ、確かな学力を身に付けてほしい。そのため、教科書に求められることはなんだろうか。また、先生方が授業される際に心に留めていただきたいことは、お二人の先生にうかがいました。

## 特別支援教育の視点から

国立特別支援教育総合研究所  
総括研究員 澤田真弓さわだまゆみ

### 1. 特別支援教育とは

そもそも特別支援教育とは何なのでしょうか。平成十五年二月に、文部科学省調査研究協力者会議「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」が出されました。それによると特別支援教育とは、「従来の特殊教育の対象の障害だけでなく、LD、ADHD、高機能自閉症を含めて障害のある児童生徒の自立や社

会参加に向けて、その一人一人の教育的ニーズを把握して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うものである」とあります。ここで重要なことは、特別支援教育の対象が通常の学級に在籍しているLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症等の子どもたちも含めているということ、そして、障害の種類や程

度だけでなく、一人一人の教育的ニーズに視点を当てているということです。近年、子どもたちを巡る教育の諸課題に対応して、協力者会議やモデル事業等の取り組みが各所でなされ、さらに教育基本法をはじめとする教育に関連する法改正がなされてきました。平成十八年に改正された学校教育法では、小中学校等において、学習障害・注意欠陥多動性障害等を含む障害のある児童生徒等に対し

て適切な教育を行うことが規定され、平成二十年に告示された幼稚園教育要領、小学校、中学校学習指導要領、翌二十一年に告示された高等学校学習指導要領においても特別支援教育について記載されており、すべての学校において、特別支援教育が推進されているところです。

### 2. わかる授業を展開するために

さて、このような流れの中で、特別支援教育を推進していくための体制整備（特別支援教育コーディネーターの指名や校内委員会の設置等）は急速に進んできました。しかし一方で、具体的な指導方法となると苦慮している実態があるのも否めません。学校という中では、やはりどの子にとっても「授業がわかる」ということが大切です。三十人以上の児童生徒が在籍しているクラスで、支援の必要な子どもを含めて「わかる授業」を展開するためには、何が必要なのでしょう。さまざまな側面から考えることができますが、まずは、特別支援教育の視点を取り入れた、誰にでも見やすい、わか

りやすいユニバーサルな教科書が基本としてあることです。とはいえ、個々のニーズにより支援の方法や配慮が異なりますので、すべてを満たした教科書はできません。しかし、「教科書に求められる配慮」（p.27参照）で示した具体例等を考慮していくことは必要です。そして、先生方は、その教科書を使い、個々の障害特性に応じた支援方法や配慮を加味した指導計画を立て、授業を展開していきます。たとえば、授業の始まりに一時間の流れを視覚的にわかるように提示して見通しを持たせたり、できるだけ簡潔で具体的な言葉を使って授業を進める、わかりやすい板書の工夫や質問・指示の出し方、また、苦手な課題が予測される場合は、あらかじめその支援方法を考えておく等々、日々の授業を見直していくことが大切になります。一方、このようなことはわかってはいるものの、日々の事務処理が多く、なかなか教材研究等に時間が取れないのも事実です。そのようなことを考えると、たとえば、障害特性に応じた支援方法や配慮、授業でのヒントや教材例等が示されている指導書や指導案例等があると、非常に参考になるのでは

ないでしょうか。

また、教材の面から考えると、視覚的に聴覚的に教材を示せる「国語デジタル教科書」の活用も考えられます。「国語デジタル教科書」は、文章をまとまりごとに示せたり、音声で読ませたり、イラスト等の拡大等々、その使い方によっては、支援の必要な子どもたちにとって、非常に有効なものとなります。これらを活用しながら、先生方が工夫していくということであれば、「わかる授業」を展開しやすくなるのではないのでしょうか。

### 3. 今、教科書に求められることは

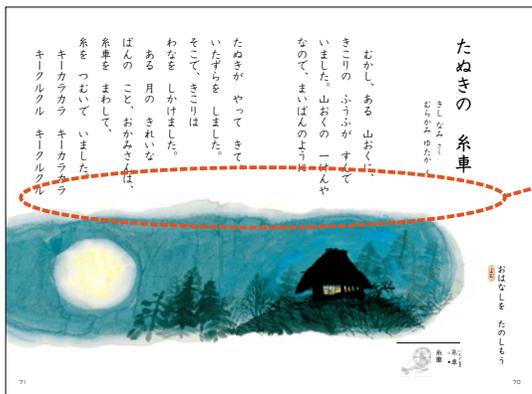
ところで、平成二十年六月に「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」が制定されました。この法律の目的は「教育の機会均等の趣旨にのっとり、障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及を促進し、障害等の有無にかかわらず児童及び生徒が十分な教育を受けられることができる学校教育を推進すること」にあります。ここで「教科用特定図

教科書に求められる配慮（具体例）

- 色づかい
  - ・ 使用する色数は適当か
  - ・ まぎらわしい色づかいと組み合わせになっていないか
  - ・ 色覚に特性のある子どもに配慮した色づかいとその対応
- 文字の大きさ、フォント、行間、ルビ
  - ・ 見やすく、わかりやすくなっているか
- 文章
  - ・ 説明、指示等の文章は簡潔か
  - ・ イラストや図解等の併用により理解を促す等の工夫
  - ・ 文節の途中で行移しをしない（特に低学年）
- 重要なポイント等の表し方
  - ・ 書体を大きくしたり太くしたりする
  - ・ 問題やまとめ等を枠囲みし、わかりやすくする
  - ・ 内容ごとに箇条書きする
- 図等の背景色や飾り
  - ・ 内容理解に必要な背景色や飾りかどうか
  - ・ 図表中の文字や数字が見やすいかどうか
- ページ構成
  - ・ 指導の順、思考の順の構成になっているか
- 写真・図・内容ごとの区別
  - ・ 各領域がはっきりしているか
- 学習の目標や手順
  - ・ 何をするのか等の見通しがもてるか
  - ・ 学習の振り返りができるようにチェック欄を設ける等
- イラスト
  - ・ 本文に合ったイラストか

書等」とありますが、これは教科用拡大図書、教科用点字図書、その他障害のある児童及び生徒が学習するために作成した教材であって、検定用教科図書等に代えて使用し得るものです。

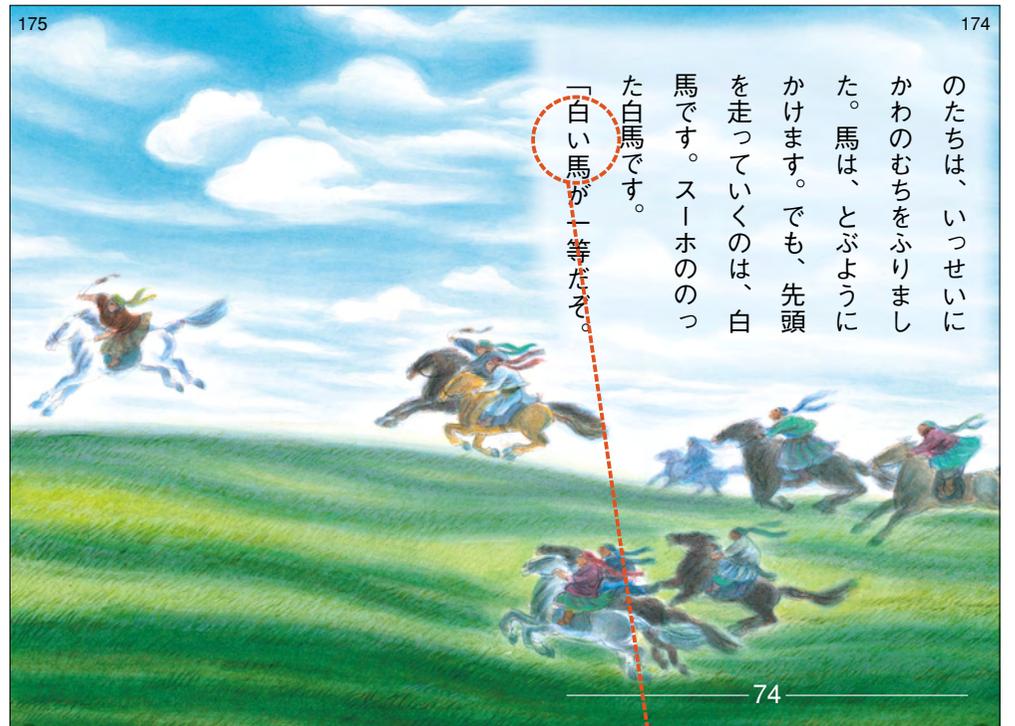
弱視児童生徒のための拡大教科書を例にとれば、拡大教科書は、弱視児童生徒の視認特性を考慮して、原本教科書（検定用教科図書）を見やすいように、文字や図を大きくしたり、フォントや行間、色彩やコントラストの変更、囲み線を入れ各領域をはっきりさせる等々の工夫が施されています。これらの工夫をして作成された拡大教科書は、弱視児童生徒のみならず、他の障害の子どもたちにも見やすく、わかりやすい教科書となっていることがわかってきています。文字等を拡大教科書のように大きくしないまでも、拡大教科書作成の技術的知識や情報を含めて、特別支援教育の視点から原本教科書を作成していく、それは取りも直さず、すべての子どもにとって見やすくわかりやすい教科書となります。そして指導者の配慮等と相まって、「わかる授業」さらには「学力向上」にも繋がっていくのです。



行の終わりで単語や文節が切れないよう、文章の折り返しに配慮している。  
「たぬきの糸車」(平成23年度版/一年下)



一つひとつの写真がはっきり区別できるように、写真の境目を広くとっている。  
「どうぶつ園のじゅうい」(平成23年度版/二年上)



のたちは、いつせいかわのむちをふりました。馬は、とぶようにかけます。でも、先頭を走っていくのは、白馬です。スーホのつた白馬です。

「白い馬が一等だぞ。」

白い馬

拡大教科書  
光村図書では、他社に先がけて平成4年度より拡大教科書を発行。その蓄積された経験や使用者の意見などをもとに、平成23年度版教科書でも、さらに読みやすい拡大教科書を目指す。  
「スーホの白い馬」(平成17～22年度版/二年下)

実際の文字の大きさ。(26ポイント)  
本文の文字は、大きくゴシック体で再編集されている。

# 色覚特性の視点から

工学院大学情報学部

准教授

市原恭代  
いちばらやすよ

## 心に色がつく前に

— 小学校低学年での色覚特性への配慮 —

「色・形・大きさ」の概念を習得することは、小学校二年生、三年生での大切な学習です。これらは、やがて抽象的な思考となり、人生を歩む上での大切な力となります。「色・形・大きさ」のうち、「形」は指でなぞって確かめることができます。丸は角がない、三角形は角が三か所、四角形は角が四か所というように。「大きさ」もうさを腕に抱いたり、子どもどうしで背の高さを比べ合ったりして、実感することが可能です。つまり、「形」と「大きさ」は、物理的に確かめることができる概念なのです。

しかし、「色」は違います。色は目をつぶったら見えません。暗闇でも見えません。私は目の見えない方にも色彩学を教えたことがあります。例えば、暖炉に手をかざし、暖かいと感じたとき、世界には暖かい色というものがあることを伝えます。同様に冷たい水に触れたときに

冷たい色を、顔いっぱい太陽の光を浴びたときに昼間の光は黄色いことを伝えます。「色」は、感覚的なものと物理的なものを併せ持った抽象的な概念なのです。

五歳から八歳くらいに色覚に多様な性がある子どもたちに色を教える仕事は興味深く、なおかつ大変な仕事です。

「赤と緑」を混同するタイプの色覚特性、より詳しく言えば「赤と緑」、「オレンジと黄緑」、「水色とピンクと灰色」、「青と紫」を混同するタイプの色覚特性を持つ子どもは、日本人の場合、男子で約5%、女子で0.2%います。この数は多様な性のうちに含まれるもので、例えば欧米では男性の約10%が相当します。ほぼ左利きの子ども数ですね。一クラスに一人から三人くらいは、赤と緑を混同するタイプの色覚特性の持ち主ということになります。

色を教えるということは、カテゴリリーという頭の中を整理する箱を教えることでもあります。観察力を伸ばすために野

の花を色鉛筆で描くとき、そこに説明文を付け加えるとき、色刺激と色名が結びつかず、不思議な色名が書かれていても先生方には驚かないで欲しいのです。

オレンジを描いて、オレンジ色と書いてあっても誰も不思議には思いません。では、レンゲを描いてレンゲ色、タンポポを描いてタンポポ色と書くのでは、なぜ正解でないのでしょうか。多数派の色覚の先生は、これはピンク、これは黄色と単純に教えてしまいがちです。そうして、ピンクは赤の仲間、朱色とエンジ色も赤の仲間と教えて、赤という箱を作り、そこに要素の色を入れていきます。子どもはここで、概念の集合化を学習するので

しかし、赤と緑を混同するタイプの色覚特性を持つ子どもは、違うカテゴリリー（箱）を持っています。一つの箱に水色の花とピンクの花を入れてもこういう子どもたちにとっては決してそれは不正解ではありません。顔に緑色が塗られていたり、桜の花は灰色と言うことがあるかもしれませんが、それはその

子どもにとっては間違いではないのです

よく観察してみてください。このタイプの色覚特性を持っている子どもは、多数派の色覚の人間には見つけられないものを見つけるかもしれません。草むらの中のバッタや川の中の魚影を見つければ、多数派の色覚の子どもより早かったりします。

小学校低学年の子どもに色を使って場所やものを指摘するときには注意が必要です。「教科書の赤いところを見て」と言いそうになったとき、赤と緑を混同す

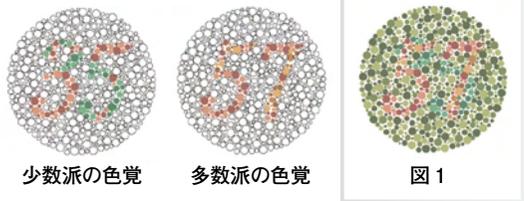


図1を見た場合、多数派の色覚では赤とオレンジが同じカテゴリーに入っているため「57」の数字が読みやすい。一方、少数派の色覚ではある種の赤と緑が同じカテゴリーに入り、ある種のオレンジとウグイス色が同じカテゴリーに入るため「35」の数字が読みやすい。

(出典) The Ishihara Pseudoisochromatic plates: the transformation designs in the 38-plate version.

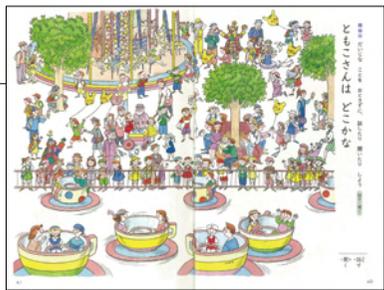
る子どもたちがクラスに一人から三人いることを思い出してください。「水色のボタンの数はいくつですか?」と聞くと、同じページにピンクや灰色の同じ形のボタンが載っていないか、一秒でいいですから見てください。小学校低学年では、目に見える色刺激と色の名前が直接結びつく時期です。この時期に色名を使ったコミュニケーションを行う際には、少しだけ注意を払ってあげてください。また、教科書にもそのような配慮が必要となります。

子どもたちの成長はとも早く、小学校五年生ではもうそのような配慮は必要なくなりますが、なぜなら、子どもたちは心に色があることを知るので、情熱の色は赤、悲しみは青、平和の色は緑というように、情熱も平和も目に見えませんが、見えぬ色があることを知る小学校高学年では、もつと抽象的な概念が学べるようになります。世の中には見えない色の方が多いのかもしれない。大人になればなるほど、心情の表現に色彩を用いるようになります。ですが、あなたの情熱の赤とわたしの情熱の赤が同じ色であ

るとは限りません。

色覚に多様性があることは素晴らしいことです。人と異なる色覚特性をもつがゆえに鋭い観察力を生かして科学者になったり、優れた感受性に育てて芸術家になったり、大人がたくさんいます。

ぜひ少数派の色覚の子どもたちにも自分の感覚が間違っているのではなく、自分の大切な個性であることを伝えてあげてください。



教科書では、色だけに頼らずに理解できるよう、色以外の情報も入れて示している。「ともこさんはどこかな」(平成23年度版/二年上)



かねへの「原理・原則」を子どもたちといっしょに考える。このような場面を授業のなかにたくさんつくりたい（写真は藤井先生の授業の一コマ）。

書写の時間でも子どもたちに話し合いをさせたり、自分の意見を発表させたりする場を積極的につくってきたいですね。

また、新しい学習指導要領では、言語活動の充実が謳われていますので、

身に付けさせることが大事です。



子どもたちを思考させるために、書写授業で心がけることは何ですか。

宮澤 発問研究ですね。他教科では普通に行われている発問研究が、書写の時間ではあまり行われていないんです。

藤井先生は「金」が「かねへん」になると、どこがどう変化するのかなどと発問し、「右上がりになる」「右はしがそろう」などの「へんの原則」や、「ぶつからない、ゆずり合う」という「へんの原理」を子どもたちに考えさせていました。発問によって、子どもたちに思考させ、書写の「原理・原則」を身に付けさせることが大事です。

そうですね。宮澤先生にいろいろ聞いてみよう！



イラスト：藤井良二  
ピッチちゃん



ペンちゃん

前回の授業レポート、とてもおもしろかったね。書写についてもっと知りたくなったよ。

# 書写の授業を変えよう

連載  
書写の時間を考えよう  
特別編

前号（小学校国語教育相談室68号）で、藤井浩治先生の授業をレポートし、書写授業の魅力を目の当たりにした、ピッチちゃんとベンちゃん、今回は、教科書の編集委員である宮澤正明先生に、これからの書写指導で求められることや、新しい教科書の魅力についてお聞きします。



藤井先生の授業を見て、たった45分で子どもたちの字がぐんとつまくなったので、とても驚きました。

宮澤 「考えて書く」と変わるんですよ。藤井先生の授業では、「なぜこうなるの？」と疑問を投げかけ、子どもたちに考えさせていたでしょう。そういう「思考する場」を、きちんとつくっているんですね。

書写の時間って、先生も子どもも思考が停止しがちなんです。「今日、書く字のポイントはここだよ。じゃあ、お手本見ながら書いてみよう」と説明し、子どもも手本や教科書を見ながらひたすら手を動かし、先生はその様子を眺めていたり、ときには手を取って指導したりも



「原理・原則」を身に付けさせることは、なぜ大事なのでしょうか。

宮澤 「書写」は、高校芸術科「書道」のように、高度な技術や表現方法を学ぶ場ではなく、文字を正しく整えて書くための知識「原理・原則」を理解し、それらをつまえた技能を養うことを目指すのです。私は、大学の「書道」の授業では、約半分は「書写」の学習内容である筆使い、字形、配列などの「原理・原則」を徹底して考えさせます。

例えば、整った字形と整っていない字形を並べて見せて、「どっちの字形が整って書けていると思いますか」と尋ねます。もちろん全員が整った字形を指差しますが、「なぜ、整っていると思うの？」と聞くと、「何となくそう思う」とか「そう教わってきた」とか、あまり上手く答えられない。ほとんどが教師を目指す学生たちですが、小・中学校で学ぶべき「原理・原則」に関して意識をしておかなかったんですね。ですから、それを理解して書くときたちまち字形が整いやすく、他の文字にも応用できることに深く感動するようですよ。



みやざわまさあき  
宮澤正明  
山梨大学教育人間科学部教授、大東文化大学講師。静岡県生まれ。光村図書の小・中学校書写、高等学校書道の編集委員。著書に、『書写なんでも百科第3・4巻』（岩崎書店）、『毛筆書写墨場必携』（日本習字普及協会）など多数。

ますが、そうこうしているうちに、もう、まよめの時間になってしまふ（笑）。思考する場や時間の設定が少ないのがちょっと残念ですね。

思考して書く、一枚目と三枚目の筆使いや字形は明らかに変化します。たった一時間の授業で成果が目に見えるので課題解決型授業にしやすい。またメタ認知（※1）の最たるものだと言う方もいます。新しい学習指導要領でも、「表現力・思考力・判断力」が重視されていますので、書写の時間でもぜひ思考する場や時間をつくってほしいですね。



書写の授業は「難しい」と思っているらっしゃる先生も多いようですが…。

「なぜ整った字形に見えるのか」の「なぜ」の部分、小学生の頃から追究させていきたいと強く思います。

宮澤 「書道」との混同があるかもしれませんが、私には、書写の力というのは、どんな筆記具であれ「全員が達することのできるレベルの字形、その書き方」と考えています。文字の造形性を求めたり、高度な技術による線を出したりする必要はまったくありません。

このように、みんなが共有できる知識と技能を身に付ければよいわけですから、書道の心得がなくとも書写の授業は「誰にでもできる」ととらえ、自信をもって指導していただきたいと思っています。

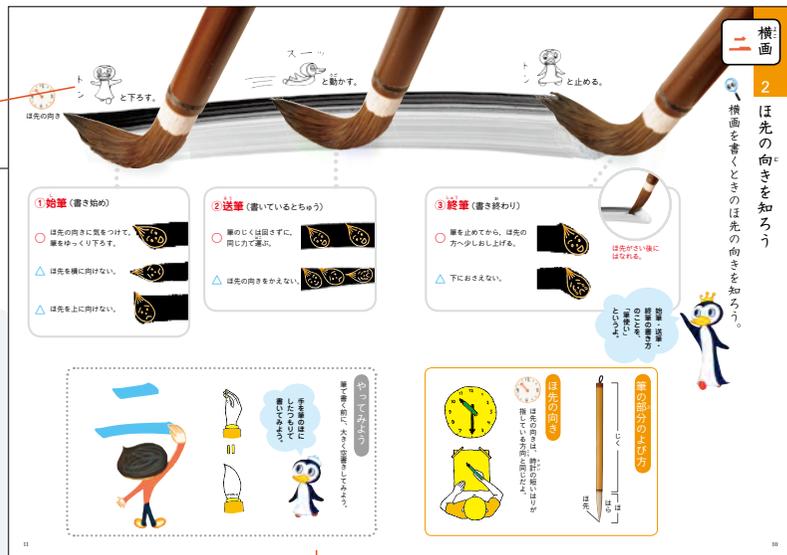
書写の授業では、「原理・原則」を子どもといっしょに考えよう！



※1 メタ認知：自分の行動や思考を、客観的に判断し認識すること。

※4 絵解きが多いのも特長。ピッチャン、ペンちゃんが活躍。

※7 漢字指導と連携した「わくわく漢字教室」。このコーナー以外にも、国語の教科書との連携を図るコーナーが随所にある。



平成23年度版/三年

※5 見開きページを使って、大胆にレイアウト。このようなビジュアルの工夫が随所に見られる。



平成23年度版/五年

●新版教科書のポイント

主教材(手本)

原理・原則



平成23年度版/四年

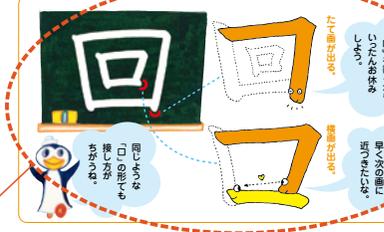
※6 主なページに自己評価欄「ふり返ろう」を入れた。



※3 墨の濃淡で、穂先の動きがわかりやすい。これらの文字は、宮澤先生の筆によるもの。きれいな濃淡を出すまで、一文字につき何回も試行錯誤を繰り返したそうだ。先生の苦勞の賜物。



※2 点画の組み立て方を考えて書こう。どの部分にどのように接しているのかな。



※2 「口」は、次の画へ短い距離で移動しようとする「近道の原理」が働くため、二画目の終筆が内側に入り、横画の終筆が外に出る。「田」は、内部に画があるため、二画目で「いったん停止する」という原理が働き、縦画が外に出る。それらの原理を、「回」を使って、わかりやすく解説している。

宮澤先生が考える新版教科書の魅力を教えてください。

宮澤 やはり書写の授業では「原理・原則」を考えたり教えたりしていきたいので、そういう紙面構成にしています。書写の教科書は「見開きの右側に主教材(手本)、左側に解説」という構成にすることが多かったのですが、光村の教科書は、まず「原理・原則」を理解した後、大きく書いてその確認に入るため、右側に「原理・原則」、左側に「主教材」という構成にしています。そして、新しい教科書で特筆すべきは、「原理」つまり「なぜそういう書き方をするのか」を随所に載せている点です。今までの教科書では「原則」は掲載していましたが「原理」的解説やそこまでする内容は載せていなかったと思うんです。例えば、「口」「田」のように、囲まれた四角の右下には二通りの接し方があります。「口」では横画の終筆が、「田」では縦画の終筆がそれぞれ外に出ます。今までの教科書は、その「原則」だけを載せていましたが、新しい教科書では「原

理」も載せました(※2)。こうすることで、「口・田」以外の文字を書くときに応用ができると考えます。今まで先生方が「なぜ?」と思われることの答えが載っているわけですから、発問もしやすい。これは大きな進歩だと思います。それから、新しい教科書では、これまでに以上にビジュアル化を図っています。主教材を墨の濃淡で示し、穂先の流れが視覚的にとらえやすいように工夫しています(※3)。また、絵解きを多く入れたり、「トン・スイツ・トン」のように擬音語で示したり(※4)、こんなふうに基本点画の横画を見開きでワイドに示したりもしています(※5)。

最後に、現場の先生方へメッセージをお願いします!

宮澤 書写の授業は、開発の余地がたくさんあります。ぜひ、他教科で行っている発問研究や教材研究などを、そのまま書写に当てはめて実践してみたいですね。新しい学習指導要領では、言語活動が一つのキーワードになっていて、書写はその一翼を担う重要な学習です。子どもたちと楽しみながら、いっしょに考え、学んでいっていただきたいですね。新しい教科書がその一助になることを願っています。

新版教科書で、書写の授業を変えよう!





# 全国 国語教育活動レポート

このコーナーでは、全国の国語教育に関する取り組みをご紹介します。  
今回は群馬県です。

## 本とのつきあひ

「㊦ つる舞う形の群馬県」

これは群馬県の子どもたちが親しむ郷土かるた「上毛かるた」の中の一枚である。ほかには、「㊩ 伊香保温泉日本の名湯」「㊪ 和算の大家関孝和」など、県内の名物や歴史などが四十四枚のかるたに詠まれている。このかるたは財団法人群馬文化協会が、子どもたちの郷土愛を育むために作成し、すでに六十年以上の歴史をもつ。

\* \* \*

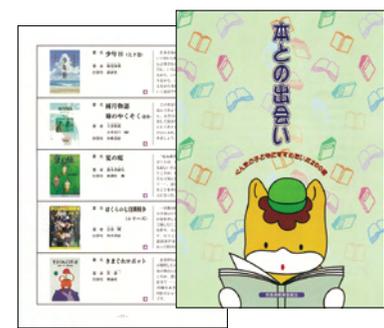
歴史の長さでは「上毛かるた」に及ばないものの、子どもたちに向けた取り組みで今年で十年目を迎えるものがある。群馬県教育委員会の「本との出会いぐんまの子どもにすすめたい本 二〇〇選」だ。

平成十二年に、「子どもたちが良書を読む手づくりしたい」という思いから、教育委員会が「読書活動推進事業」をスタート。子どもたちに読んでほしい本を選ぶために、選定委員会が設置された。

委員は、県内の小中学校関係者、学識経験者（大学教授など）、地元新聞社・書店関係者、公立図書館職員、学校の読み聞かせボランティアの総勢三十四名で構成され、委員が数ある本のなかから「日本の物語」「自然と科学」「歴史・地理・伝記」など九つのジャンルに分け、計二百冊を選定した。選んだ本には紹介文を加え、リーフレットを作成。県内の子どもたちに配布された。

昨年度は、このリーフレットを改訂した。改訂するにあたり、県内の小中学校読み聞かせボランティア、一般県民にアンケートを実施し、「引き続き残したい本」「差し替えたい本」「新たに載せたい本」などを調査し、その結果をもとに、新たな「二〇〇選」を作成。現在、教育委員会のホームページよりPDFデータをダウンロードすることができる。

選ばれた本を見てみると、『路傍の石』『指輪物語』などのおなじみのものから、『群馬県のことば』『尾瀬はぼくらの自然塾』『和算で遊ぼう』など、郷土に関する良書も多数紹介されている。教育委員会では、この二百冊の貸し出しを行っており、図書の購入を検討する



「本との出会い ぐんまの子どもにすすめたい本 200選（平成21年度改訂版）」は、群馬県教育委員会のホームページよりダウンロードできる。（現在、印刷物での配布は行っていない。）

学校からの貸し出し依頼も多い。また、県内の学校図書館や公立図書館では「二〇〇選コーナー」が設置されるなど、広く定着してきている。  
「子どもたちが本と良い出会いをするきっかけになればいいですね。今年で十年目になりますが、定期的に見直しを行いながら、長く続けていきたい。将来的には『上毛かるた』のように、地元で根づいたものになりたいと思っています」と、この取り組みに携わった義務教育課の井田明子先生は言う。  
群馬県で育った人なら、誰でも「上毛かるた」をそらんじて言えるように、誰もが「二〇〇選」に載った本を読んでいる——そんな日も近いのかもしれない。

## 広報部便り

特集「日本の心、日本の言葉」はいかがでしたか。阿刀田さんとアーサーさんの対談では、紙面に紹介しきれないほど、たくさんの面白いお話をお聞きました。

何より印象的だったのが、お二人が、とても楽しそうに古典を語っていらったこと。「まず大人が古典に親しむ」というお話もありましたが、こんなにも楽しく古典を語る大人が近くにいたら、子どもは自然と古典が大好きになるだろうな…と感じました。

23年度版教科書では、数多くの「伝統的な言語文化」に関する教材を1年から6年まで系統的に配し、折にふれて古典に親しめるようにしています。子どもたちも先生

方も古典に楽しんでいただけるよう、さまざまな工夫しておりますので、ぜひご覧いただければと思います。

次号でも引き続き、23年度版教科書を集めます。「国語力を伸ばす」というテーマで、今求められる国語力とは何か、その力をつけるために教科書にどのような工夫がされているのか、具体的にご紹介する予定です。

また、青山由紀先生（筑波大学附属小学校）の古典授業をレポートする新連載がスタートします。子どもたちが古典と出会ったときの面白いエピソードや、古典を教えることの楽しさをお伝えしたいと考えております。どうぞご期待ください。

## お知らせ

### 移行期関連資料について

弊社ホームページに、「移行期関連資料」が掲載されていますので、ぜひご活用ください。  
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/Data/ikou/>

### ■国語

移行期の年間計画（1～6年）	現行教科書の単元・教材について、時数や扱い方が変わるところをわかりやすく示した年間計画です。
移行措置資料付「学習材例」（1～6年）	現行教科書の単元・教材の扱いに、新しい学習活動・指導内容を組み込んで、指導の展開例などを示しました。
移行期の指導に向けて（学年共通）	新学習指導要領の特徴や、移行措置の要点をまとめた資料です。
学習指導要領新旧対照表（低・中・高学年）	新旧の学習指導要領を並べて表示し、変更された部分や、新規で加わった点をわかりやすく示しました。
移行期の指導のために（学年共通）	「古典を楽しむ」「知って安心『PISA型読解力』」…など、新学習指導要領の特徴的な部分をピックアップし、解説しました。

### ■書写

移行措置のポイント（学年共通）	学習指導要領の＜新・旧＞対照表や、低・中・高学年それぞれの移行措置のポイントを示しました。
移行措置資料（1～6年）	移行措置に関連する指導要領の新規事項をわかりやすく示した年間指導計画です。

音読・暗唱・読み聞かせ

光村の提示型デジタル教材シリーズ

# わくわく古典教室

新学習指導要領対応

## 今日から始める 古典の授業



- 特長 1 画面を見ながらの音読
- 特長 2 暗唱するための工夫がいっぱい
- 特長 3 昔話や神話・伝承の読み聞かせ
- 特長 4 豊富な資料映像
- 特長 5 プリント教材の作成
- 特長 6 全学年で活用可能

【価格】学校フリーライセンス 小学校版 低学年用 (読み聞かせ・言葉遊び編) 26,250円 (本体価格 各 25,000円) For Windows ⑤ 中学年用 (短歌・俳句、故事成語編) 高学年用 (古文・漢文編)

※学校フリーライセンスは、校内でご利用になるパソコンの台数を制限しない契約です。※価格には、サーバやパソコンへのインストール費用は含まれておりません。

光村図書出版株式会社  
〒141-8675 東京都品川区上大崎 2-19-9  
E-mail: digital-info@mitsumura-tosho.co.jp

▼「わくわく古典教室」について、詳しくはこちらまで  
[www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/](http://www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/)  
TEL: 03-3493-5741 (お客様窓口)

renewal!

## ホームページ「光村チャンネル」 全面リニューアルしました!

- ✓ 毎日の授業に役立つ資料がさらに充実!
- ✓ 必要な情報にすぐにたどり着けるシンプルな構成!
- ✓ 親しみやすく、わかりやすいデザイン!

▶ <http://www.mitsumura-tosho.co.jp>



必要な情報にスムーズにアクセスできるようになりました。

タイムリーな話題、注目のコンテンツなどお知らせが切り替わる楽しい画面を配置しました。

教科の部屋には、教科書の基本データ、授業に役立つ資料など、日々の実践をサポートする情報が満載!



新コーナー「シーズン・インタビュー」では、さまざまな分野で活躍されている方をゲストにお招きして、お話をうかがいます。  
第1回は、バルセロナ五輪陸上400mのファイナリスト高野進さんに、走るの魅力や、子どもたちに伝えたいことなどをお話いただきました。  
高野さんは、平成23年度版 小学校国語4年上巻の説明文「動いて、考えて、また動く」を執筆されています。

